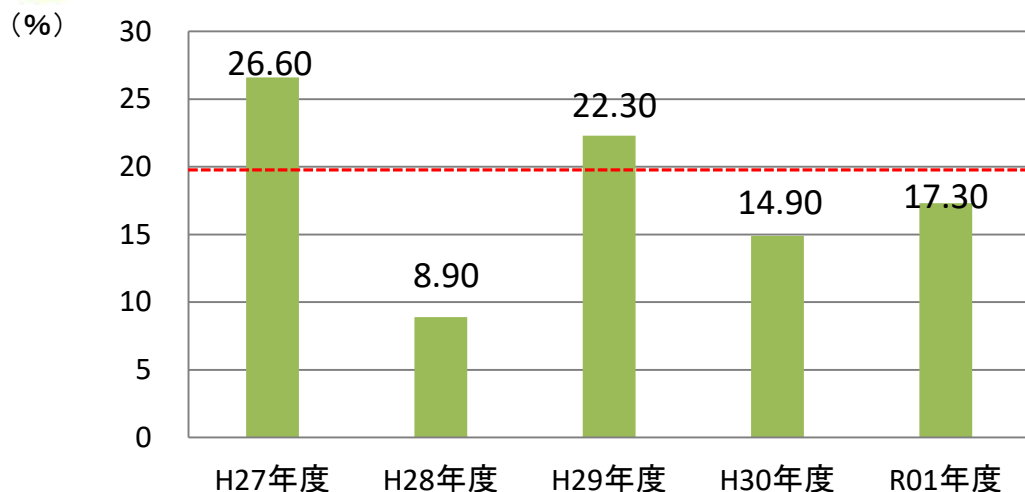


脳神経内科：t-PA治療または血管内治療の実施率

■ 解説: process指標

脳血管が閉塞して生じる脳梗塞では、発症から4.5時間以内の“超急性期”に対しては、血栓溶解療法(t-PA静注療法)が実施されていますが、本治療の再開通率は低く(30~40%程度)、その適応患者も限られています。現在、本治療で症状改善が見られない場合や適応外の患者に対しては、8時間以内であれば、カテーテルを用いる血管内治療(EVT)が行われるようになっていきます。これらの急性期再開通治療を適応に照らして単独または組み合わせて実施できれば、患者の予後やQOLの改善が期待でき医療の質の向上に繋がります。

■ 当院の実績



■ 定義

新規の全脳卒中患者におけるt-PAまたは血管内治療施行の割合

■ 算式

分子: t-PAまたは血管内治療施行患者数

分母: 当科における全脳卒中(TIAを含む)患者数

■ 参考文献・学会ガイドライン等

脳卒中治療ガイドライン2015(日本脳卒中学会:脳卒中ガイドライン委員会)

《自己点検評価》

平成26年度から28年度にかけて段階的にt-PAおよびEVTによる急性期再開通療法の実施率を段階的に上げて15%以上にする目標を掲げてきました。平成27年度26.6%(t-PA単独12.6%、EVT単独7.59%、t-PA+EVT 6.3%)には目標を達成、脳梗塞の対象例も平成28年度から100例を超え、平成26~令和1年度の通年での急性期再開通療法実施率も、16.6%(103/618例)となっています。令和元年度は目標を20%に引き上げ、今後も患者の予後やQOLの改善が期待できる医療の提供を推進いたします。

